

言語としての日本手話ⅡA/ⅡB			
担当教員	中野聡子・下島恭子(非)	対象年次	1年次～4年次
科目分野	【教養教育】人文科学科目群	開講回数	30
授業形式	演習	単位数	1

授業の目的

重度の聴覚障害児・者とのコミュニケーションでは、手話や文字など、音声を介しない視覚的手段が必要となる。本講義では、日本語とは異なる言語体系を持つ日本手話について、CEFRのA2-B1レベルの言語運用力の習得を目指す。本講義は、「言語としての日本手話ⅠA/ⅠB」が履修済みであることを条件とする。また、「言語としての日本手話ⅡA」「言語としての日本手話ⅡB」と連続した演習授業となっているため、2つの授業を併せて履修することを条件とする。

授業の到達目標

(厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム基礎課程修了相当)

1) 日本手話で、CEFR(学習、教授、評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠)でA2-B1レベルの言語運用能力を身につける

CEFR A2:

ごく基本的な個人情報や家庭情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係のある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

CEFR B1:

仕事、学校、職場で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。手話で話されるときに起こりそうなたいの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた脈絡のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。

2) 日本手話の基本語彙1,500語を習得する(750語は「言語としての日本手話ⅠA/ⅠB」で習得済み)

3) 聴覚障害者を始めとする配慮の必要な人々とのコミュニケーションにおける基本姿勢を身につける

4) 聴覚障害とその支援に関する基礎知識を身につける

ディプロマポリシーとの関連(評価の観点)

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
- B：論理的・創造的思考力 ○
- C：コミュニケーション能力 ◎
- D：社会的倫理観・国際性 ◎

授業概要

対面による毎回の授業では、手話による言語活動を通じて、日本手話の言語運用能力（文法的能力、社会言語的能力、談話的能力、方略的能力）を高めていく。このほか、オンデマンド授業において、聴覚障害やその支援に関わる基礎知識を学び、また日本手話の文法知識を定着させる。

授業スケジュール

<対面授業>

「言語としての日本手話」の IIA と IIB を合わせた授業スケジュールである。
学修進捗状況等に応じて変更することがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文末コメント
- 第3回 関係節と補文構造
- 第4回 空港を案内する
- 第5回 無人島に持っていくなら
- 第6回 買い物（1）
- 第7回 買い物（2）
- 第8回 図の説明をしよう
- 第9回 ストーリーを作ろう
- 第10回 絵本の読み聞かせをしよう（1）
- 第11回 絵本の読み聞かせをしよう（2）
- 第12回 家の中の整理収納
- 第13回 手話語り（1）
- 第14回 手話語り（2）
- 第15回 ろう者の職業
- 第16回 電話リレーサービス（1）
- 第17回 電話リレーサービス（2）

- 第 18 回 津波からの避難（1）
- 第 19 回 津波からの避難（2）
- 第 20 回 クレームの申し立て
- 第 21 回 デフジョークを楽しもう
- 第 22 回 日本のお雑煮大調査
- 第 23 回 障害者の雇用（1）
- 第 24 回 障害者の雇用（2）
- 第 25 回 ろう教育
- 第 26 回 聴覚障害者に関する福祉サービス
- 第 27 回 病院のアクセシビリティ（1）
- 第 28 回 病院のアクセシビリティ（2）
- 第 29 回 翻訳にチャレンジ（1）
- 第 30 回 翻訳にチャレンジ（2）

<オンデマンド授業>

「言語としての日本手話」の IIA と IIB を合わせた授業である。R-LMS で講義動画を視聴したあと、事後課題で 80 点以上とる必要がある。

1. 障害福祉の基礎
2. 聴覚障害者活動と聴覚障害者福祉制度
3. ボランティア活動

授業時間外学修情報

- 「言語としての日本手話 IIA・IIB」を併せて、毎週宿題がある。
- 当該授業日の前日までに、授業資料を提示するので、言語活動で出てきそうな語彙や表現、授業で行うタスクについて予習しておくこと。
- 対面授業のほかに、オンデマンド授業がある。

成績評価基準(授業評価方法) 及び 関連するディプロマポリシー

- 積極的・主体的な学び（授業への出席、宿題の提出回数、積極的な手話表出練習、講師への質問や話しかけ、他の受講生の手話表出や講師とのやりとりからの学び、自主的な学習等）…60%（B・C・D）
- ・出席の確認は毎回授業終了後に提出されたリアクションペーパーで行う。リアクションペーパーの提出期限は授業翌日の昼 12:00 とする。
- ・公欠の対象となる病気、忌引、教育実習等については、公欠の手続きを取ること。欠席をするときは理由にかかわらず、教員に連絡をすること。

- ・宿題の提出回数が3分の2未満の場合は単位が取得できない。
- ・聴覚障害の知識にかかわるオンデマンド授業はすべての回について、事後課題で80点以上をとれていなければ単位取得ができない。
- ・オンデマンド教材「日本手話の文法」は、すべての回について事後課題で80点以上をとれていなければ単位取得ができない。

■授業におけるタスクや宿題の内容に対する評価（日本手話の言語スキル）…40%（A・C）

- ・学期末試験の得点を含む（資料・動画の閲覧不可）。

受講条件(履修資格)

- 「言語としての日本手話」のIIAとIIBを併せて履修すること。